

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教職員は「教学相長」の創立時精神を踏まえ、「チーム布施高」として、その資質・能力の向上を図り、教育内容の充実と環境整備につとめ、

1. 基礎学力・語学力を確実に身につけ、思考力・判断力・表現力・行動力を備えた生徒の育成に努める。
2. 自他を認め、まごころと思いやりを持つ心身ともに健全で規律ある生徒の育成に努める。
3. グローバル社会を生き抜くため、個を磨き、自己成長を習慣化できる人間の育成をめざす。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成（4ツール：授業、試験、課題、補講習を磨く）

- (1) 授業力向上
 - ア プロセスアプローチの。各学年の教科毎に Input と Output を定義し、投入する資源、陣容、運用方法（手順・技法）、評価指標（監視測定項目と目標値）を明確にする。年度毎にプロセススタート図の作成
 - イ アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進。学校教育自己診断における「学力のつく授業が多い」の項目で、肯定的回答 20%増(H26 年度は 56%)
 - ウ ICTを授業に積極活用することで、わかる授業、興味を引く授業を展開する。
- (2) 自学自習への仕掛け
 - エ 家庭学習課題の充実、定期テスト・朝の小テスト・全国模試の内容充実、新入生対象学習合宿の充実、補習・講習の充実
 - オ 校内自習環境の整備推進
 - カ PTA活動での保護者への働きかけ
- (3) 進路保障
 - キ 普通科専門コースを発展させ、将来生徒たちがなりたい自分を実現する選択の幅を広げる。(H26 年アドバンスコース 120 名を H29 年 160 名)
 - ク H28 年度卒国公立合格者 20 人、関関同立現役合格者実人数 80 人以上をめざす。(H26 年度卒 現役実人数：国公立 2 名、関関同立 36 名)

2、健全な心身の育成

- (1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成
 - ア 挨拶指導・遅刻指導の充実により、H29 年間総遅刻数H26 年度年度（総遅刻数）比 50%減の実現
 - イ 時間マネジメントを重視した自治会行事の充実、1,2 年生部活動の加入率 85%以上の実現（H26 年 5 月時点 80%）
 - ウ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答 H29 年 70%以上を達成する。(H26 年生徒 51%、保護者 59%)

3、夢・志のはぐくみ

- (1) 系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成
 - ア FROM NOW（総合的な学習の時間）や LHR・学校行事の見直しと充実。
 - イ 国際理解教育の推進
- (2) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり
 - ウ 保護者、中学生徒、中学校教員への授業公開。新たに導入したワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。
 - エ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」を展開する。

4. 機能的な組織運営

- (1) 情報化の推進と業務効率Up
- (2) 運営委員等のミドルリーダーの育成
- (3) 若手教員の育成
- (4) 防災教育・訓練の充実
- (5) 広報活動の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">確かな学力の育成</p>	<p>(1) 授業力向上 ア プロセスアプローチ</p> <p>イ 授業アンケートの活用や公開授業、研究授業の推進 ウ ICT活用授業</p> <p>(2) 自学自習 エ、オ、カ 授業以外の学習時間確保</p> <p>(3) 進路保障 キ、ク 専門コースの内容充実</p>	<p>ア 学年教科毎にプロセスのタートル図作成と深化実践（4ツールの高位平準）</p> <p>イ 教員相互の授業見学（少なくとも教科内授業）と Review 会の実施</p> <p>ウ プロジェクター、iPad を活用した授業の実施で、生徒の興味や関心を引くとともに考える時間を創造する。</p> <p>エ、オ、カ 家庭学習課題の充実。学習合宿実施。年間補講、講習計画と実践。サテラインゼミの実施。夏休み8時間耐久勉強会実施 全国模試（3回/年）・学力生活実態調査（2回/年）実施</p> <p>キ、ク 2年生カリキュラムは体育1減し理科1増（理系）、国語演習1増（文系）</p>	<p>ア 授業アンケートで「学力の付く授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒肯定的回答の10%増（H26年56%）</p> <p>イ 全教員が必ず複数回は授業見学参加。</p> <p>ウ ICTを活用した教員40名以上、授業アンケートで「ICT機器が各教科で活用されている」肯定的回答50%以上（H26年度40%）</p> <p>エ、オ、カ 4月と11月に授業以外の学習時間を調査。1、2年生は平日60分以上、3年生は平日120分以上。 学習合宿後のアンケートで「学習意欲高まった」の肯定回答85%以上</p> <p>キ、ク アドバンスコース中心に国公立14名、難関私立64名 新2年生が3年生春の学力生活実態調査で2年生春レベルを維持</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健全な心身の育成</p>	<p>(1) 自律と自尊心育成 ア 挨拶指導、遅刻指導 イ 時間マネジメントを重視した自治会活動、クラブ活動 ウ 教育相談の充実</p>	<p>ア 朝の立ち番、登校指導週間の実施 遅刻者の即日保護者連絡</p> <p>イ 体育祭、文化祭授業カット見直し。新入生への部活動入部促進。アルバイト原則禁止の徹底</p> <p>ウ ・教育相談委員会の定例化と充実 ・支援教育コーディネータ中心に支援委員会を充実</p>	<p>ア 年間総遅刻件数3500以下（H26：4473）</p> <p>イ 1、2年生春の部活動入部率83%以上（H26年5月時点：80%）</p> <p>ウ 学校教育自己診断「先生は親身になって相談に応じてくれる」肯定回答60%以上（H26年51%）</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">夢・志のはぐくみ</p>	<p>(1) キャリア教育 ア 総合的な学習・LHRの充実 イ 国際理解教育の推進</p> <p>(2) 地域・保護者連携強化 ウ 近大や他大学との連携・司馬遼太郎記念館との連携</p>	<p>ア From Now（総合的な学習）・LHRの見直し</p> <p>イ 国際交流の推進と国際理解教育の推進 オーストラリア短期語学研修実施 短期留学生の受け入れ アジア高校生団体受け入れと交流</p> <p>ウ 体験講義・出前講義等の実施と充実。 司馬遼太郎学習プログラム、菜の花忌運動の展開</p> <p>エ PTA活動と連動させた授業見学週間（2回/年）の実施。中学生・その保護者の授業見学。</p>	<p>ア、イ From Nowの見直しで、自己の確立とコミュニケーション能力、さらに異文化と共生できる資質や能力を育成する。 「国際理解教育に力を入れている」肯定的回答50%以上（H26 42%）</p> <p>ウ 司馬遼太郎学習プログラム1年生全員。 菜の花の忌運動1、2年生参加継続 1、2年生全員がオープンキャンパス訪問</p> <p>エ 授業見学参加者保護者50人以上、中学生50人以上</p>	

府立布施高等学校

機能的な組織運営	<p>(1) 情報化の推進と業務効率 Up</p> <p>(2) 若手リーダーの育成</p> <p>(3) 若手教員の育成</p> <p>(4) 防災/安全教育と訓練の充実</p> <p>(5) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 内部データの電子化、情報共有化。Mail の活用、職員会議ペーパーレス継続推進。</p> <p>(2) イ ミドル/若手教員を積極登用</p> <p>(3) ウ 指導教諭・教科指導教員を中心に OJT 実践 新任教員への校内研修実践</p> <p>(4) エ 防災訓練の実施。校内安全点検実施。</p> <p>(5) オ アドミッションポリシーの明文化と学校説明会の充実。中学・塾訪問実践。学校紹介リーフレット新作</p>	<p>ア ペーパーレス職員会議継続</p> <p>イ 2年生学年主任に20代の登用。</p> <p>ウ 新任教員と二年目教員に OJT と校内研修実践(5回/年)</p> <p>エ 不安全事故ゼロ</p> <p>オ 入試倍率、前年度後期入試志願者倍率以上(H27年春 1.26)</p>	
----------	---	--	---	--